

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～栃木県～

## 目的

- ・教師の英語力の強化と授業力の向上に重点を置いた、小・中・高を通じた系統的な英語教育の充実。
- ・本県の英語教育を牽引する中核教員の育成及び研修成果の普及により、県全体の英語教育の向上を図る。

英語力強化・授業力向上のための研修事業（とちぎ英語教員スキルアッププラン）

## 取組内容

### ○英語授業力向上研修

- ・英語教育推進リーダーを活用した研修を栃木県総合教育センターで実施。
- ・5年間で中・高の全ての英語科教員、全ての小学校から2名の教員が本研修を受講。

### ○とちぎ英語教育推進中核教員研修

- ・小・中・高の教員が合同で、年間を通じた研修を実施。
- ・教員の英語力強化を目指したプログラムと、授業力の向上を目指した研修プログラムを実践。



English Camp



小・中・高合同授業



授業公開&小・中・高合同研究協議

## 成果①

◎教師・生徒の英語力が徐々に上昇

### 求められる英語力を有する教師の割合

	H25	H26	H27	H28	H29
中学校	25.0%	27.0%	28.5%	28.3%	28.4%
高校	52.0%	52.0%	55.6%	55.6%	59.9%

### 求められる英語力を有する生徒の割合

	H25	H26	H27	H28	H29
中学校	32.0%	35.0%	35.3%	35.0%	39.0%
高校	33.0%	35.0%	39.6%	43.2%	41.4%

## 成果②

◎各方面との連携強化

- ・大学や外部専門機関との連携により授業実践・改善に、自信を持って取り組む教員が増加した。
- ・研修を支える指導主事等の中で交流が増え、県内での英語教育充実に向けた有益な情報交換が行われるようになった。

## 成果③

◎各校及び県内への研修成果の発信

- ・設定したテーマに基づき研修を重ね、校内授業研究会を主催した。レポートとともに授業実践映像資料を提出した。
- ・地域の小・中・高で連携して英語教育の充実を図るモデル事業を実践しその成果を公開授業研究会や資料集の発行により県内に発信した。

## 今後の課題

- ・教師の英語力の強化と授業力の向上に重点を置いた、小・中・高を通じた系統的な英語教育の更なる充実。
- ・本県の英語教育を牽引する中核教員の育成、活用及び事業成果の普及、啓発。

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・授業力向上のために、指導体制・指導方法の改善や環境整備に努めたり、活動内容を工夫したりする。【①】
- ・学習到達目標での小・中・高のつながりを深めるために、指導や情報の共有と連携を図り、指導改善に努める。【②】

具体の取組の内容

【①】の課題解決のための取組

○学級担任とALTの特性を生かしたチーム・ティーチングを実践する。担任は、ジェスチャーやクラスルームイングリッシュ、簡単な英語のみで授業を進め、ALTのネイティブの発音を児童に多く聞かせて、自然な表現をインプットさせる。

○Small Talkや場面設定を工夫した言語活動を充実させ、児童が「英語を使ってコミュニケーションができた」ことを実感できる場面を増やす。



【②】の課題解決のための取組

○小・中・高での研究授業を通して児童生徒の実態を把握し、学習到達目標の系統性を見直しながら小・中・高の一貫した指導につなげる。

○町研修会を活用して小・中・高での発達の段階に応じた指導や情報を共有し、各段階での学びを効果的につなぐ方法を考える。

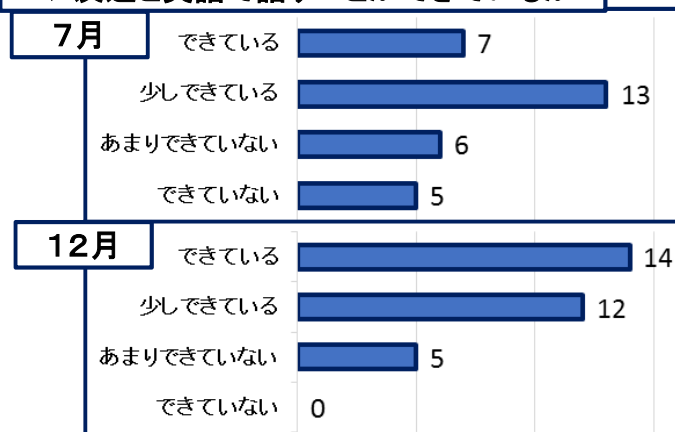


成果①

※アンケート調査小5対象(n=31)

○児童の外国語活動に対する学習意欲の向上

Q: 友達と英語で話すことができるか



成果②

○教師の変容

研修の成果を指導改善に生かし、担任とALTの特性を生かした英語による授業を実践することができている。

○教師の指導による児童の変容

児童が英語に慣れ親しむ機会と言語活動の充実により、英語コミュニケーションの意欲の向上につなげられた。



今後の課題・方向性

○カリキュラムの改善

年間指導計画の見直しや、単元を見通した言語活動の設をする。また、校内でのミニ研修の実施等により、学校全体のさらなる授業力向上につなげる。

○小中(高)連携、小小連携

異校種や町内他小学校での研究授業等の研修の機会を活用して、指導や情報の共有を図り、小中(高)の連携、小小連携を深め、一貫した指導の充実に努める。

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・効果的な言語活動を行うために、言語使用の目的や場面設定を工夫したり、活動内容を工夫したりする。【①】
- ・学習到達目標での小・中・高のつながりを深めるために、指導や情報の共有と連携を図り、指導改善に努める。【②】

具体の取組の内容

【①】の課題解決のための取組

○常活動としてSmall Talkを取り入れ、生徒が級友との関わりの中で、英語の表現力を身に付ける機会を増やす。小学校外国語科での学びの成果を生かす。

○自分の考えを相手に分かりやすく伝えるための手立てを考えた言語活動、場面設定を工夫した言語活動を取り入れる。



【②】の課題解決のための取組

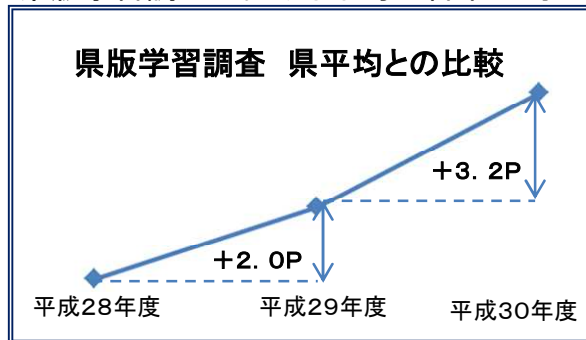
○小・中・高での研究授業を通して児童生徒の実態を把握し、学習到達目標の系統性を見直しながら小・中・高の一貫した指導につなげる。

○町研修会を活用して小・中・高での発達の段階に応じた指導や情報を共有し、各段階での学びを効果的につなぐ方法を考える。



成果①

○県版学習調査における平均正答率の向上



生徒の実態に応じた指導の工夫、言語活動の工夫などの指導改善が、生徒の学習意欲や学力の向上につながっていると考えられる。

成果②

○「話すこと」の領域[やり取り]と[発表]における生徒の活動意欲の向上

小学校での学びや既習事項を繰り返し言語活動につなげることで、相手を意識して会話を続けようとする姿勢や相手に伝わりやすくなるための発表の工夫に改善が見られた。



今後の課題・方向性

- 英語指導力の向上  
特に「話すこと」([やり取り][発表])と「書くこと」の領域をつなげる指導の工夫について研究する。
- 小学校、高等学校との連携  
学校種を超えた研究授業や授業研究会などの研修の機会を活用して、指導や情報の共有を図り、小・中・高の連携を深め、一貫した指導の充実に努める。

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・4技能向上を目指すために、スピーキングに焦点を当て言語活動の工夫を行い、授業形態を改革する。
- ・小・中・高等学校間で目指すべき指導について研修を行い、情報を共有し、つながりのある指導を行う。

具体の取組の内容

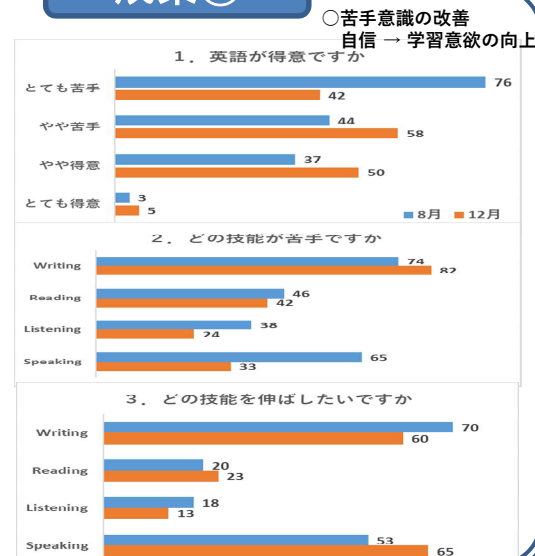
- 中核教員研修で得た知識や授業方法等を、町研修会において共有し、小・中・高等学校を通して伸ばしたい力について考える。また、具体的な言語活動の工夫についてアイデアを交換し、共に学び合う。
- 小・中・高での研究授業を通して、各校種の実態を把握する。
- 小・中・高で行っている言語活動の中から、帯活動として行っているSmall Talkの活動を高等学校でも継続し、小・中学校での学びの成果を生かすことで、能力・意識の向上を図る。



成果①

○小・中学校で取り組んでいる指導を知ることによって、「本校生に何を取り組ませるべきなのか」を具体的に考えるようになった。また、これまでよりも多様な言語活動を授業で行うようになった。さらに、どのような力を身に付けさせたいか、どのようにするとよりよい言語活動を行うことができるかなど、教員同士が話し合う機会の増加へつながった。

成果②



今後の課題・方向性

- 英語を使いたいという意欲を大切にしながら、より発展的なスピーキング活動に取り組ませる工夫を行っていく。
- 意識調査から読み取れるライティングに対する苦手意識の増加に対し、CAN-DOリストを活用しながら、生徒が力が付いたと実感できるライティング活動の工夫を行っていく。
- 各校種間の連携を継続することで、より系統的な指導を行っていく。